

## 会 議 録

会 議 名 ( 付 属 機 関 等 名 )	平成28年度 第1回 川西市健康づくり推進協議会		
事 務 局 ( 担 当 課 )	健康福祉部 健幸政策室 内線(4530)		
開 催 日 時	平成28年12月15日(木)午後2時00分から		
開 催 場 所	川西市医師会 医療会館		
出 席 者	委 員 ( 敬 称 略 )	藤末会長 藤木副会長 杉町委員 松浦委員 今西委員 樋口委員 井関委員 加藤委員 多久和委員 坂口委員 西村委員 久委員 臼井委員 日下委員 野平委員 齋田委員 田川委員 山上委員	
	その他	(株)名豊 千葉	
	事務局	小倉室長 池田参事 松本主幹 曾野・坂上・森副主幹、 樋口・米田主査、池田・石見主任保健師	
傍聴の可否	一部不可	傍聴者数	0人
傍聴不可・一部不可の 場合は、その理由			
会 議 次 第	別添「審議経過」のとおり		
会 議 結 果	別添「審議経過」のとおり		

## 審 議 経 過

第2回 川西市健康づくり推進協議会 審議経過（要旨）

平成28年12月15日

午後2時00分～

川西市医師会 医療会館

出席者：18名（欠席者：4名）

### [ 会議次第 ]

- 1 開会
- 2 新任委員自己紹介
- 3 報告事項
  - 「川西市健康づくり計画」の進捗状況について
  - 「川西市健幸まちづくり条例」の制定について
- 4 協議事項
  - 「川西市健幸まちづくり計画」策定のためのアンケート調査について
- 5 その他
- 6 閉会

	<p>議事</p> <p>【 1 . 開会】</p>
事務局	<p>定刻にはなっておりませんが、みなさまお揃いになりましたので、ただいまから平成 2 8 年度川西市健康づくり推進協議会を開催いたします。</p> <p>委員のみなさまにおかれましては、大変寒い中、また年末の大変ご多忙のところ、本推進協議会にご出席いただきまして、誠にありがとうございます。</p> <p>私は、事務局の健康政策室の小倉でございます。本日、健康福祉部長が所用のため欠席をさせていただきます。大変申し訳ございません。</p> <p>それでは、本日の委員のご出席状況について報告させていただきます。磯崎委員、佃委員、藤原委員、横谷委員の 4 名の方がご欠席でございます。また、半数以上の委員のみなさまにご出席をいただいておりますので、本日の会議は成立しております。尚、本日の会議は公開となっております。</p>
	<p>【 2 . 新任委員自己紹介】</p>
事務局	<p>それでははじめに、昨年度の本推進協議会開催以降、一部の委員さんのほうでご移動がございましたので、新しく委員になっていただいた方につきましてご報告をさせていただきます。お手元にお配りしております委員名簿をご覧ください。医療関係団体の代表者の区分におきまして、川西市薬剤師会の役員改正に伴い、三宅薬剤師会会長より新しく薬剤師会会長の樋口淳一委員に変更となります。福祉関係団体の代表者の区分におきまして、川西市社会福祉協議会の役員改正に伴い、副会長川井委員から新しく副会長として佃委員に変更となりますが、本日はご欠席されております。市議会議員の区分におきまして、川西市市議会議員の役員改正に伴い、江見委員から加藤仁哉委員に変更となっております。関係行政機関の職員の区分におきまして、伊丹健康福祉事務所の移動に伴い、前所長の長江委員から今回は地域保健課長の西村みゆき委員に変更となっております。</p> <p>新たな委員さんから簡単に自己紹介をお願いします。それでは薬剤師会会長の樋口委員からお願いします。</p>
樋口委員	<p>今年度より、川西市薬剤師会の会長になりました樋口と申します。薬剤師会の会員の方々にはお世話になっております。何ぶんはじめてですのでよくわかっておりませんが、しっかり勉強していきたいと思っております。今後ともよろしくお願いいたします。</p>
加藤委員	<p>市議会委員の加藤仁哉と申します。一昨年はこの審議会にはでていなかったのですが、その以前 1 年間出向させていただいて、健康づくりについて学ばせていただきました。今回も川西市の健康づくりについて、しっかりと 1 年間学んでいきたいと思っております。よろしくお願いいたします。</p>
西村委員	<p>伊丹健康福祉事務所の地域保健課の西村でございます。県も健康づくり活動には力を入れているのですが、川西市は本当に健康づくりについて先進的な取り組みをされているところだと認識しております。いろいろお教えいただいたり、できる情報提供はさせていただければと思います。どうぞよろしくお願いいたします。</p>
事務局	<p>新委員のみなさま、どうもありがとうございました。尚、任期は他の委員さんと同様、平成 2 9 年 9 月 2 9 日までとなります。今後とも本推進委員会の委員として、それぞれの専門的なお立場からご意見を賜りたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。川西市では、来年度「健康まちづくり計画」につきまして、平成 2 8 年度、2 9 年度の 2 か年にわたりまして計画策定を行います。いろいろとアドバイス等をいただくコンサルタント事業者を、本年 1 0 月に委託しました。内容的な計画の策定業務や、今回ご審議いただくのですが、アンケート調査の報告書の作成などを行っていただきます。株式会社名豊さんでございます。本日はそちらから千葉さんに来ていただき、今後この計画に携わっていただきたいと思っております。</p>
(株)名豊	<p>株式会社名豊の千葉と申します。いろいろとお手伝いをさせていただきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。</p>
事務局	<p>それでは、資料の確認をさせていただきます。事前に配布をさせていただいた協議会の会</p>

	<p>議次第、資料1として、平成28年度計画の推進状況、資料2として、健幸まちづくり条例、資料3として、アンケート調査のお願いという形で市民に配る（案）でございます。資料4として親子の健康づくりのアンケート調査ということで、乳幼児の保護者の方に行う調査です。本日配布しましたのが、委員名簿、資料3-1、資料4-1ということで、アンケートの国の関係、県の関係、新しくどのようなものを新しく取り込んでいるかということでつけさせていただきます。資料5として、健幸まちづくり情勢の概要的な部分と、スマートウェルネスシティの考え方、それから今現在取り組んでおります健幸マイレージの件についての資料でございます。お手元に揃っておりますか。ありがとうございます。</p> <p>では、ここからの議事進行につきましては、議長であります医師会の藤末会長にお願いいたします。</p>
会長	<p>みなさま改めまして、第1回川西市健康推進協議会ということでよろしくお願ひいたします。非常に寒い中、今年も余すところあと2週間ちょっとです。歳を重ねたせいとか、年々早く感じるのは私だけでしょうか。今日は、報告事項が2つと協議が1つございます。これについてみなさまにご協議いただきたく思います。忌憚のないご意見をいただきたく思います。今日は4時が終了予定と考えておりますので、ご協力をお願いいたします。それでは、レジメに沿って議事を進めてまいります。</p> <p>【3. 報告事項】</p>
会長	報告事項の「川西市健康づくり計画」の進捗状況について、事務局からご説明をお願いします。
事務局	《資料1について説明》
会長	<p>ありがとうございました。ただいまの健康づくり計画進捗状況について、ご質問はございませんか。総合的に言うと、食育のこと、歯科のこと、医科のこと、そういった健診項目でAランクが増えたということです。</p> <p>目標達成状況の指標についてご意見はございませんか。</p> <p>3歳児の虫歯が少ないということでA評価になっていますが、非常に素晴らしいことだと思います。がん検診が少し低いという表現です。この辺について委員からコメントはございませんか。</p>
委員	市のほうでもクーポンを発行していただいたりして啓発は進んでいると思います。大腸がん検診はパーセンテージも伸びています。一方で、女性のがんの部分については、川西市に医療機関が少ないということもあり、なかなか進んでいないのが現状です。それに対して我々も協力できるような今後考えていきたいと思っています。
会長	ありがとうございます。がん検診等については、行政の健康づくりさんと一緒に乳がん検診等も見直しも進んでおりますし、健診率がすべてではないということも含めてまた考えていただければと思います。医師会のほうとしても、いろいろとご協力していると思います。
委員	健康づくり計画の目標と達成状況の指標ですが、横の斜線が入っているところはこれからアンケートで埋めていかれるということですが、このアンケートは毎年実施される予定ですか。
事務局	アンケートは計画策定時に行います。来年が計画策定年度ですので、その前年度に行います。5年に1度しかできません。
委員	毎年の数値はでてこないのですね。わかりました。
会長	それでは2つめの報告事項に移ります。 「川西市健幸まちづくり条例」の制定について、事務局から説明をお願いいたします。
事務局	《資料2について説明》
会長	ありがとうございます。平成27年度に3回にわたりこの健幸条例について分科会で協議

	をし、その後パブリックコメントと市議会のほうで協議されて、今の2点が変更されたということです。この健幸まちづくり条例について、ご質問はございますか。
事務局	引き続き、健幸まちづくり条例につきまして、スライドでご説明をさせていただきます。  《スライドで説明》
会長	今のプレゼンテーションも含めまして、健幸条例、スマートウェルネスシティに基づいて事業を行ったということですが、これまでのところで何かご質問はございませんか。
委員	私たちの周りでも、この健幸マイレージを測定する仲間と、参加する仲間がたくさんおりますが、健康な方が行きます。また、まだPRが少なく知らない方がたくさんいらっしゃいます。人数が1,400名に制限されております。参加することで何かもらえるということで人数を制限されるのですが、そういったものをなくして、もう少したくさんの人数をとっていただける形がよいのかと思います。
事務局	ありがとうございます。ご指摘の通り、健康な方もたくさんいらっしゃいます。私たちの耳に入ってくる中でも、今まで家の中に閉じこもっていた方が、歩数計を抽選で当たり手にしたことで外にでるようになったといったこともたくさん聞いております。この事業については、もうすでに運動されている方ももちろんですし、地域の行事に今まで1度も行っていなかった方も行くようになったとか、地域の方から、この方は今まで全然地域に顔だしされていなかったけれど、運動会に来られて綱引きをしたいとおっしゃってられるというお声も聞いているので、そういったところを今後も掘り起こしていきたいと考えています。ただ、参加者の人数につきましては、健康測定会という測定を行っております。そのキャパシティの問題もございますので、その辺りはうまく循環するような形で今後順繰りに参加者を増やしていけたらと考えております。今後とも、ご協力をいただいた上で、ご理解をいただければと思っております。
委員	確かに市のほうではそのようにおっしゃっているのですが、周りのコミュニティだけをみておりまして、新しい人が来たというのは本当に少ないです。ですから、その辺をもう少し広げていけたらと思っております。ありがとうございます。
会長	今のご意見に関連してですが、30%の人は健康に非常に高い目的意識を持たれています。その方にこのようなキーを与えると余計に行いすぎる、これをオーバーユースと言いますが、これには注意しなければいけません。それから、アンケートは無作為で抽出されていますが、70%の運動されていない方に配るような配慮があってもよいのかと思います。応募した順番に抽選というのも、もう一考してもよいかと思えます。医師会の市民医療フォーラムで武藤先生がおっしゃっていましたが、動機付けにはよいが、それが目的、商品が中心となると、今言った問題を起こすことがあるので十分に気を付けてくださいというコメントをいただきました。それは十分に気を付けていただき、70%の運動していない方をいかに上げるかです。数字だけをみるとものすごくよくなっているように感じますが、実際には地元の声はまだあるということで、これに満足しないよう、もっと頑張っていたきたいと思えます。他にはございませんか。
委員	フレイル対策に力を入れられているというお話でした。フレイルということであれば、早期に発見する必要があります。その発見するというのが、少し抜けているのではないかと感じます。健康診査と後期高齢者検診をしていただいておりますが、後期高齢者健診自体が特定健診に準じているということで、若い人にターゲットを絞った健診をそのまま高齢者に適用しています。はっきり言ってナンセンスな健診です。これは日本全体の話です。そういったところで、ぜひ川西市では年齢、ステージに応じた健診をぜひ実施していただき、高齢者でしたらフレイル対策、例えば栄養状態や筋肉量を量る、握力を量るなどそういった簡単なことでできますので、それを行っていただきたいです。若い女性の方であれば貧血検査をしていただくなど、職域健診では実は若い方の貧血が問題になっています。ところが基本健診に入っていないので、矛盾しているところがあります。ステージに応じた健診の再編というものをだしていただきたいと思えます。以上です。
会長	委員のおっしゃったことについては、市のほうにも要望させていただいている内容でございますので、また十分検討していただきたいと思えます。

	<p>それでは次に、協議に移りたいと思います。</p> <p>【４．協議事項】</p>
会長	協議事項 「川西市健幸まちづくり計画」策定のためのアンケート調査について、事務局から説明をお願いいたします。
事務局	《資料３、問１から問１６までについて説明》
会長	<p>アンケート内容が多いので３分割させていただきます。最初の医療と歯のところまでです。これについて、ご意見をいただきたいと思います。これは２０歳以上の方を無作為で抽出して３，０００人に配布するアンケート調査です。年齢の上限はないということです。</p> <p>１ページ目、２ページ目に関しては、大きな問題はないかと思います。</p> <p>３ページ目の問１３と問１４、特に在宅医療のことについて新しい調査項目と、問１５に文言として「ストレス」が入ったということです。問１３、１４について、ご意見はありませんか。</p> <p>問１３で、在宅医療の必要性やニーズなど、これからこういったことを行っていかなければいけないのですが、一般の方には「自宅での治療」「療養する医療」「在宅の治療」という言葉が難しくはないですか。</p> <p>よく質問を受けるのは、在宅医療と往診の差です。急変者が往診をお願いしますと一般的に言われます、急変した病気については救急病院です。在宅は基本的には決まったスケジュールのもとに、月１回、もしくは月２回、それ以上の訪問をするのが在宅医療であり、治療という言葉は医療です。療養というのは、医療だけではなく介護、いろいろな多職種、歯科、薬剤師を含め、福祉関係の方も含め、その方の２４時間の生活のすべてをケアするということです。医療、治療、療養という言葉にわかれませんが、この辺の説明がないとわかりにくいのではないかと思います。</p> <p>また、往診と在宅医療の差も、これだけでわかるのかなと思います。それが危惧するところでは、医療関係の方からご質問はありませんか。</p>
副会長	<p>みなさんもお存じだと思いますが、川西市の歯科医師会では訪問歯科センターというものがございまして、ここに歯科の８０２０のことや、健康のためという項目があるのですが、施設や居宅の訪問診療も４年間行っております。毎月の出勤回数は５００件から６００件くらいとニーズもすごくあります。自分の近くの歯医者さんに行けない人は、こちらから出向いて行って、どのような状況であっても治療をするという形ができ上がっています。そういったところでも更にアナウンスをしていただければよいと思います。今日も在宅の治療に行っておりましたが、やはり家からでられない人はたくさんありますし、施設にもなかなか来てくれないということもあって、できるだけニーズに応えるように行っております。こういったところにもそのようなことをプラスしていただけたらどうかと思います。</p>
会長	<p>歯科のほうでは、問１６の選択肢１５から１９ということで、川西市は先進的に全国に先がけて訪問歯科診療にでかけられているということです。問１６に漏れはないですか。</p>
副会長	<p>「歯科の在宅医療について知っていますか」といったように「歯科」という文言がないと一般的に往診や訪問というのは医科の分野で多いと思われていると思います。歯科でも今申したようにニーズが多くありますので、そこもひと言入れていただけたらよいと思います。</p>
会長	<p>問１３のところ「医師や看護師などの訪問を」のところ、医師、歯科医師、看護師、もっと言えば歯科衛生士、薬剤師ですね。それらも入れられたらよいです。</p>
委員	<p>私は自宅でまちの保健室というものを１０年ほど行っております。私は伊丹市で訪問介護ステーションをしていた関係上、在宅で介護保険のサービスを受けながら家で過ごすことができるという方向に持っていたらよいなという思いがあります。病院に来て何をやるのかという状況で入院される方がたくさんいらっしゃいました。みなさんに最初から事前に自分がどういうときにどうするかということや、ずっと言い続けてきました。現在平均年齢８４歳の方が２０人くらいいつもいらっしゃいます。その方たちは、この在宅医療について未だに、病気になったら、介護が必要になったら入院できて長くいられるという感覚</p>

	<p>を持っていらっしゃると思います。今は元気ですから、自分がどこで死を迎えるか、その辺りがピンと来ていなくてその話を嫌がる状況です。私はそれをしっかりとしていきたいと思っているのですが、在宅医療という辺りがまだぼんやりとしか掴めないような感じを受けます。国やマスコミは盛んにこれを言っていますが、一般市民はどこまでそれを受け止めているのかなと思います。</p> <p>ケアマネや専門職の方々、特に介護や訪問介護の方ですが、川西市で在宅医療を担当してくださる先生はどこにいるのか、どこに聞けばよいのかといった話を耳にします。私は伊丹市がメインだったのですが、伊丹の医師会はリストをつくって公表しています。こちらの医師会におたずねしたことがあるのですが、それは公表していないと聞いています。その辺りもいろいろな意味でアピールしないと、一般市民が自分のものとしての受け止めができていかないのではないかと思います。</p>
事務局	<p>ご指摘をありがとうございます。我々もその辺りは大事なことだと受け止めております。その件につきまして、まず在宅をしているかかりつけ医といったことですが、市のほうと連携させていただきまして、来年の4月1日から在宅医療介護支援センターを開設いたします。積極的に在宅医療、それから在宅看取りを進めていきます。リストについてはできておりますが、公表してそこに集中してしまうとパンクしてしまうので、できるだけ振りわけるといことを医師会が行っていました。それを公に支援センターで振りわけいただくというところで、専門職に対しては全部オープンにしていこうという動きがあります。もうしばらくお待ちいただきたいと思います。</p> <p>川西市でも2025年問題で、高齢者が30%を超えて病院の病床が回らなくなっているため、ぜひとも川西市のほうも在宅で治療される方を増やしていかなければならないという方向性があります。その辺をもっとはっきりしていかなければいけないと思います。貴重なご意見をありがとうございました。</p>
会長	<p>問13に関しては、「医師や看護師など」の「など」のところをもう少し拡大していただければよいのかと思います。事務局、いかがでしょうか。</p>
事務局	<p>ご提案をいただきましたので、もう少し考えていきたいと思っています。</p>
委員	<p>確かに薬剤師のほうも在宅医療に関わっておりますので書いていただけたらありがたいと思いますが、このアンケートの中の文面もあると思いますので、そこはお任せいたします。我々も在宅医療ではなく、お薬を配達してくださいといまだに言われることがあります。これも先生が言われたように、在宅医療として関わる時には継続的に伺って、お薬がちゃんと飲めているかどうか、今よく残薬という問題がありますが、飲めていない方に対してはどうして飲めていないのかを追及し、飲み方を減らすとか、飲めないお薬を飲む形に変えるといった検討をして、副作用がないかを確認させていただくのが在宅医療です。ただお薬を渡しに行くだけということではないということ、まずは周知することが必要かと思えます。ぜひ、よろしく願います。</p>
委員	<p>私たちがいち早く在宅医療を行ってくださる先生は把握しています。先ほど言いましたように、今往診に来てくださるという方が多数おられるので、混乱ないようにちゃんと時期をみた上で公表します。もちろん病院の先生であれば、病院の連携室には情報はいつでもあります。本当に在宅医療が必要な方には、リストが配布できるようつくってあります。一般の方は、在宅医療と往診の区別がつかない方がいらっしゃるの、その辺りははっきりするまでは公表は控えたいということでございます。</p>
会長	<p>1点確認をさせてください。4ページ、問15で「16.肺炎(誤飲性肺炎)」とあります。誤飲性肺炎をつけられたということで、問22では「誤嚥性肺炎」となっています。これは別の言葉でよいのでしょうか。統一したほうがよいです。「誤嚥性肺炎」でよいですか。ではそのように訂正をお願いします。それでは次に移ります。事務局からお願いします。</p>
事務局	<p>《問23から問41までについて説明》</p>
会長	<p>6ページの「食生活と食育について」から、11ページ問41「たばこ・アルコールについて」までの説明でした。ご質問はございませんか。委員、いかがでしょうか。</p>
委員	<p>アンケートで最終的に何を導きだしたいかということになるのですが、このままの集計</p>

	<p>でいくと今までの比較、もしくは年齢でどのような割合が高いかという結果になると思います。先ほどのところで、虚弱の方やフレイルの方がどのようなニーズを持たれているかというところをアンケートから導き出すためには、最初の提案の「あなたの健康について」というところの項目に、フレイルに関する項目を入れて、この方が虚弱であるかどうかわかれば最終的に得られたアンケート結果から、虚弱の方はどのようなニーズがあるのかがわかると思います。そのニーズを反映するのが健康づくりにつながると思います。それがわかるような項目を前半部分に入れてほしいと思います。例えば自覚的な健康についておたずねしますというところに、「体重減少が最近あった」「昔に比べ疲れやすくなった」「筋力低下を感じている」といった項目を入れていただければ、この方がフレイルだとわかり、得られたアンケートが役に立つのかと思います。ご検討いただけたらと思います。</p>
会長	<p>最初に協議した一つ目のところの総論的なところにフレイルの定義、精神的、身体的、社会的、それから歯のフレイルについても最近言われております。そういったところでフレイルの人を選べるようなところがあれば、後のアンケート調査に反映されるのではないかというご意見です。特に高齢者の方に関しては、食のフレイルというのはかなり変わりました。今のご質問に対して事務局いかがでしょうか。</p>
事務局	<p>2ページの問8に「現在の健康状態はいかがですか」という設問がございます。前回、この中で「あまり健康でない」という文を虚弱としてクロス集計した経緯がございます。今、委員がおっしゃったことは、もっと細かい区分でないそれが図れないということがわかりましたので、これは検討したいと思います。</p>
会長	<p>75歳以上の検診で、特定高齢者、虚弱高齢者を見つけるための25項目のアンケート調査がありました。それがフレイルのことをすべて網羅しています。そちらのアンケート調査を参考にするとよいと思います。食育について、委員はいかがですか。</p>
委員	<p>子どもの食育のほうが専門なので、次の親子のほうでご意見させていただきます。</p>
委員	<p>「健幸まちづくり」という観点で言うならば、8ページの27-2の「スポーツ・運動」なのですが、「どなたとやっていますか」「どこでやっていますか」というものも必要かと思えます。地域のスポーツクラブなのか、あるいは民間のフィットネスのようなところなのか、まちの公園なのか、こういったこともまちづくりという観点では必要だと思えます。それから、「スポーツ・運動」を20代からを対象にするならば、括り方というのがよくわかりません。もう少し精査が必要なのではないかと思えます。</p>
事務局	<p>久委員からありました「健幸まちづくり」については、「健幸につながるまちづくり」のところで、「スポーツや運動に参加する機会がありますか」という項目で聞いております。おっしゃったように、人と人のつながりという意味では「どなたとやっているか」「どこでやっているか」ということも精査をしてみたいと思います。また、27-2の選択肢が1番から11番まであるのですが、それですべてを網羅できているわけではありません。この中でこのようなものを入れたらよいというご意見がありましたら検討をしていきたいと思えます。よろしく願います。</p>
会長	<p>よろしいでしょうか。他にはご意見ございませんか。それでは、次の説明を事務局から願います。</p>
事務局	<p>《問42から問56までについて説明》</p>
会長	<p>ありがとうございました。これでアンケート調査の内容はすべてでございます。これについて、ご意見を願います。</p>
委員	<p>難しいなと思えます。それと、自分には在宅のお話もまだ先の話であり、さほど関心がありません。今自分が行っていることであればしっかり答えられますが、このアンケートをみて答えられるだろうかと思いました。</p>
委員	<p>健康なのですべてに当てはまるかどうかではなしに、将来のことを考えてみて答えられると思えます。</p>
委員	<p>各地域で、まちの保健室というプライベート病院があちこちに展開していますが、それと</p>

	<p>どのような形でリンクされているのかがわかりません。老人がまちの保健室でいろいろなアドバイスももらっていると聞いています。その辺とリンクされているのかどうか確認させてください。</p>
事務局	<p>まちの保健室につきましては、現在兵庫県の看護協会が行っております。川西市内にも10か所、まちの保健室がございます。主にどこかの高層住宅の集会室、公民館、病院などで、毎月や、年に何回かという形で開催されております。現段階で、市とまちの保健室が直接連携をしているということはありません。この話が終わってから、最後のその他のところで、そのうちのひとつの取り組みのところをご紹介させていただきます。現段階ではありませんが、今後は考えていきたいと思っております。</p>
会長	<p>県の事業ということですね。 その他にはございませんか。</p>
委員	<p>16ページの「スマートウェルネスシティについて」です。先ほどの説明の中にもありました「つい、歩きたくなるまち」というのがひとつの目標だとすれば、わざわざ健康づくりやスポーツをするのではなく、日常生活の中に健康づくりが埋め込まれているというのがいちばんの理想だと思います。そう考えたときに、「やっていますか」という項目の聞き方が多いので、そうではなく例えば1日の生活スタイルをお聞きして、「外出の頻度はどれくらいですか」「どういった目的で外出されていますか」など、そういったことも少し聞いていただくと、「つい歩きたくなるまち」の参考データになるのかと思います。地域活動を担っていること自体も、健康づくりにつながっていくのかと思いますので、「地域活動にどれくらい参加されていますか」ということもお聞きして、それと健康の状態とか健幸まちづくりの関心度のようなものをクロスしていけば、健幸まちづくりという観点でもう少しいろいろなデータがみえてくるのではないかと思います。</p>
事務局	<p>委員のおっしゃる通り、今回の新しい「健幸まちづくり条例」をつくった、その意図的なものも、従来の健康づくりとの部分も含め、地域、人とのつながりという意味ではそのようなことも健康につながっていくということです。そういった意味では、自然と歩いている、外にでかける、そのようなことを進めていくという意味で「外出の日はどれくらいありますか」「地域活動にどれくらい参加されていますか」といった形で項目も当初いろいろと挙げていたのですが、項目数をこれ以上増やすとなかなか返事がもらえないのではないかと懸念し、削った部分もございます。もう少しアンケート項目も「スマートウェルネスシティについて」に関しましては、再度検討していきたいと思っております。</p>
会長	<p>ありがとうございました。今日来られているような、こういった社会的参加も社会的フレイルという言葉があり、健康であるという証拠だと思います。 他にはございませんか。西村委員、何かございませんか。</p>
委員	<p>問34に戻ります。「最近1か月間に、ストレスを感じたことはありましたか」という設問に4つの選択肢があります。前回の調査のパーセントでは7割になっていて、目標値を6割にするというお話でした。実際どれくらいが望ましいのでしょうか。「毎日感じる」のはいけないのか、「時々感じる」がよいのか、基準というのはどのようなところにあるのでしょうか。</p>
会長	<p>誰でもストレスは持っているわけで、どれくらいを目標達成度にするのかというご質問ですね。前と比較するために置いているということですか。ストレスの70%というのは、他の市と比べて多いのですか、少ないのですか。多ければもう少し工夫しなければいけないのかということもひとつの目標かと思えます。漠然としたことであって、細かいことまでは答えられないかとは思いますが。</p>
事務局	<p>指標的な部分では比較はしておりません。ストレスについては、国や県でもありますので、その辺の部分で比較していきたいと思えます。ストレスを感じない人が増えてくれればよいと思っております。前回は、平成23年度、川西市で「ストレスを感じたことがある人」は70.2%に対して、国は61.3%という数字がでております。川西市は国よりは高くなっております。今回、これをだしてその差がどれくらいになっているのか図りたいと思えます。</p>
会長	<p>これは検討課題ですね。</p>

	委員から、ご意見はございませんか。
委員	このアンケートは3,000通配布で、42パーセントの回答率だったのですが、これはいつ郵送されて、いつまでに回収されているのですか。
事務局	前は、11月に配布して、2週間で回収しました。今回につきましては、1月の下旬くらいに発送をして、2週間くらいの期限を設けて回収させていただきたいと思います。
委員	42%の回答率ということなので、この審議会に参加されている方たちの団体、例えば藤木先生であれば藤木先生のところの患者さんに20人くらい書いていただくとか、そういったことがあれば回答率は非常に高いと思います。例えば市議会議員全員に配って回答を得たり、消防団も検診を受けているので30人とか40人の団体で渡せばそれは結構返ってくると思います。回答率はそんなに重要ではないのですか。
事務局	回答率は非常に重要です。前回は50%を割っているのがネックかと思っております。ただし、今のご意見ですと健康意識の高い方に回答していただくことになります。客観的な数字、市民のみなさんの中でという数字がほしいと思っています。高齢者のアンケートですと60%までいったりもするのですが、こういった一般になるとどうしても低くなってしまいます。
委員	このアンケートをウェブで回答できるようにすれば、国勢調査もスムーズに返ってきているので、コストがかかる面もありますが、そのようなものを導入していただければ、若い人の回答が返ってきやすいと思います。国勢調査も地域で行っていますが、お孫さんがおばあちゃんの調査をスマホで打ってくれて楽にできたということもありますので、そういった回答の方法も付け加えていただければと思います。
会長	不手際がございまして、資料4が残ってしまいました。先に資料4の説明を事務局からお願いします。
事務局	《資料4について説明》
会長	それでは委員から、資料4についてご意見はございませんか。
委員	今日も親子の歯科検診に行きまして、親子31組がみえました。その中でも、お父さんと一緒に来たり、ご夫婦で来たりと、そういった面で教育熱心な方がいらっしゃいます。そういったところにみえる方はよいと思いますが、その他のことはわかりません。このアンケートで授乳の設問がたくさんあるのですが、今授乳がよいのか、悪いのか、いろいろと問題もあります。また、私がいちばん気になるのは「あなたは、朝食を食べていますか」ということです。まず親のほうから行っていただいて、それを子どもさんに伝えていくことがいちばん大事だと思います。
会長	朝ごはんのことも食育のことで書いてあると思います。全体を含めて、ご意見はございませんか。
委員	アンケートは回収率について、しっかりと努力して対策を考えなければいけないと思います。資料3については、無作為で20歳以上、年齢上限なしにだされるので、そこはしっかりと考えないといけないと思いました。3と4の資料を比較したときに、アンケートのおたずねの仕方がずいぶん違うと感じます。そんなに詳しくは私も素人なので言えないのですが、言葉の統一というのはしておいたほうがよいです。「皆さま」という漢字を使うのか、使わないのか、資料3では1ページをみると「あなたご自身について」とあり、資料4では「あなたご自身についておたずねします」とあります。整合性がないのではないかと思います。アンケートのおたずねの仕方なのですが、例えば1ページ、問5で「お子さんのお父さん、お母さんの年齢や」と書いて、その下に「母親、父親の生活」と重複したような書き方をされています。その中の3では「いない、または別居している」人は「問6へ」というところは、2ページに移ると問6で「あて名のお子さんは、何人中何人目のお子さんですか」とあり、意味が不明でわかりにくいです。1ページに「問6へ」と書くのならば、2ページで「3番に○をされた方にお聞きします」といった書き方に変えたほうがよいです。そのような部分が何点かあります。

委員	<p>また、問10と問12の書き方については、同じような書き方をしたほうがよいです。問10の選択肢は1から4までであるのに、問12では1と2しかありません。</p> <p>それと、先ほど日下委員から朝食についてご意見がありました。「ほとんど毎日食べる」や「ほとんど食べない」と聞くより、「朝食をつくっていますか」といった観点も大事かと思えます。</p> <p>この3と4を読んで書いていたら途中でわかりにくくなって、もういいかという感じになってしまったというのが正直な感想です。以上です。</p> <p>問33は新しく付け加えられた項目です。「子育て支援について、地域の人にどのようなことを望みますか」とあります。地域の人にどうしてほしいのかというのであればこのような設問でよいのですが、今子育て支援は川西市の地域だけではなくNPOが行っていたり、その親御さん同士が子育て支援をシェアということも行っています。その辺りで、これをどちらの方向に持っていくかによって少し書きぶりを変えてほしいと思います。</p> <p>それからこの選択肢なのですが、地域で子どもを育もうという項目と、まさしく子育て支援をする項目がまじっています。その辺りも切りわけをして整理していただきたいと思えます。</p>
会長	<p>貴重なご意見をありがとうございます。その辺は可能ですね。</p>
事務局	<p>はい。</p>
委員	<p>家にもアンケートが来ますが、面倒なことは面倒です。子どもたちはこれ書いたら何かくれるのと言いますから、若い子たちはそのような感じなのだろうと思います。アンケートの設問は細かくすればするほど途中で面倒くさくなってしまって、期間を過ぎてだせなかったということもあります。3,000人に対して例えばクオカード500円など渡すと費用がかかるので、封筒の中に何か入れていただければ回答率が上がるのではないかという気がします。市のほうに余っているものがあれば、同封されたいかがでしょうか。</p>
会長	<p>ありがとうございます。アンケート率を上げるためのご提案です。何か考えていただけたら幸いです。</p> <p>本日は、みなさまから忌憚のないご意見をいただき、ありがとうございました。それではこれで司会を事務局にお返しいたします。</p>
事務局	<p>【5. その他】</p> <p>《まちの保健室について紹介》 《今後の予定について説明》</p>
事務局	<p>【6. 閉会】</p> <p>それでは、平成28年度第1回川西市健康づくり推進協議会を終了いたします。ありがとうございました。</p>